

☆ カブトムシの床づくりを行いました (11月8日) ☆

山々の木々も色づき秋深し。カエルたちも冬ごもりに入ったようです。

サポーターズクラブでは11月8日、世羅町郷土愛護少年団の子どもたちと一緒にカブトムシの床づくりを行いました。おとな子ども合わせて約30名で、里山の木を伐り、運び、機械でチップにしてカブトムシ床づくり。その後、冬のカブトムシの様子も観察しました。

最初は里山の木を伐りだすところから。のこぎりを使って木を切る作業は子どもたちも楽しそう。落ちていた枝木も運び出して、里山が少しきれいになりました。トラックで運んだ木は森林組合から借りてきた機械にかけて、チップ状にしました。柾の中に木のチップと刈り草を、交互に層ができるように入れてカブトムシ床の完成です。床の腐熟がうまく進めば、来年の夏にはカブトムシが卵を産んでくれるはず！

作業後は、園内の堆肥置き場から見つけてきたカブトムシの幼虫をみんなで観察しました。カブトムシの寿命は一年。成虫は夏に卵を産んだ後、死んでしまうので、冬に見られるのは幼虫です。冬のカブトムシも意外と大きくてカッコイイ？かわいい？カブトムシの幼虫は朽木や落葉を食べてフンにして土にもどす、里山の循環の中で大切な仕事をしています。



自分たちで伐った木を運んでいるところ



運んだ木を機械でチップにしました



カブトムシの幼虫(右上)を観察
思ったよりも大きくてびっくり！？



冬眠前？のニホンアカガエル
来年2月3月には彼らの産卵が見られるでしょう